

令和5年度 生徒指導重点指定校 報告書 五日市中学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

- ・長期欠席者数が全生徒の約1割を占めており、長期欠席者の中で社会的支援や学習支援が必要な生徒が多く在籍している
- ・家庭訪問等で保護者・生徒と会うことが困難なため、関係機関との連携を要する。
- ・不登校傾向生徒の早期発見や解決に向けた支援が不十分である。

2 重点目標

- 1 不登校生徒等を支援するオンライン授業の実施
- 2 SSW と連携した社会的支援の実施
- 3 不登校傾向生徒の早期発見・未然防止に向けた組織的な対応

3 具体的な取組

※1の課題解決に向け、具体的に取り組む項目

1 不登校生徒等を支援するオンライン授業の実施

- ・ICT（Google classroom 等）を利用した、第1・2学年数学のオンライン授業を実施する。オンライン授業は、iPad や電子黒板を活用した一斉指導や、ミライシードや Google works を活用した協働的な学習を行う。
- ・学習内容は第1・2学年の学習指導要領を実施し、下学年の復習等を適宜行う。
- ・実施したオンライン授業を録画し、Google drive に保存することでアーカイブ支援を行う。

2 SSW と連携した社会的支援の実施

- ・関係機関との連携を要する生徒のケース会議を開催し、専門家と協働して支援を進める。
- ・SSW と情報共有を行い、支援を要する各家庭への働きかけや効果的な支援策を協議する。
- ・SSW を通じて各関係機関への支援を広範囲に展開する。

3 不登校傾向生徒の早期発見・未然防止に向けた組織的な対応

- ・週1回の「支援者会議・いじめ防止委員会」を開催し、生徒情報の共有と具体的な支援策の協議を行い、組織的で迅速な生徒指導体制を推進する。
- ・保健室の利用記録から、管理職・生徒指導主事・学年主任を中心に生徒の実態把握を進める。
- ・全学年で「学校生活・交友関係アンケート」を実施し、個々の生徒の困り感や実態を把握し、具体的な支援策に繋げる。
- ・「アセス」を実施し、表面的に捉えることのできない生徒の学校生活や家庭での適応感を測定し、本生徒の主観的な適応感や SOS のサインを出している生徒を学年で共有・具体策の検討を行う。
- ・生徒が相談者を選択できる教育相談を含め、年3回の教育相談を実施する。
- ・日常的に教育相談ができる場所を確保し、教育相談の窓口となる教員を配置する。
- ・ソーシャルスキルトレーニング（SEL8s）とMLB教育を実施する。
- ・生徒会と連携した「いじめ撲滅プロジェクト」を実施する。
- ・「いいね！カード」を用いて視覚的に生徒を肯定的に評価し、自己肯定感を高める。
- ・ふれあいひろばの意義や不登校生徒理解についての研修を実施する。
- ・教育相談、カウンセリング方法に係わる研修会を実施する。
- ・ソーシャルスキルトレーニングやMLB教育に係わる校内研修を実施する。

4 月別実施内容

4月

校内研修（生徒指導規程・問題行動マニュアルの確認・生徒理解・教職員申し合わせ）
特別支援の必要な生徒の把握と確認・障害者理解学習（生徒対象）
ふれあいひろば開設・推進員との情報連携
支援者会議・いじめ防止委員会（毎週）・特別支援推進委員会（毎月）・SC・SSW 連携開始

5・6月

不登校生徒等へのオンライン授業開始
ソーシャルスキルトレーニング（Sel-8s）の授業開始
学校生活・交友関係アンケート実施、第1回教育相談（全学年）
学校環境適応感尺度（アセス）調査

7・8月

不登校傾向生徒への支援方針の確認、生徒への働きかけ
小中連携・小中情報連絡会実施
長期休業前の生活指導・地域指導
犯罪防止教室の実施
校内研修会の実施
学校環境適応感尺度（アセス）実施、結果分析と具体的対策の検討（各学年会）
MLB 教育（1・2学年）

9月・10月

長期休業明けの問題行動・不登校生徒支援、対策の協議
学校生活・交友関係アンケート実施（全学年）
ソーシャルスキルトレーニング（Sel-8s）

11月・12月

第2回選択式教育相談（1・2学年）
長期休業前生活指導・地域指導

1月～3月

ソーシャルスキルトレーニング（Sel-8s）
薬物乱用防止教室（1・2年生対象）
学校生活・交友関係アンケート実施、第3回教育相談
特別支援の必要な生徒の把握・確認（小中連携）
生徒指導規程の見直し・改訂
出前授業・小学校新入生オリエンテーション
長期休業前生活指導・地域指導
不登校傾向生徒及び心配な生徒への働きかけ
新入生保護者への啓発活動

5 成果

1 不登校生徒等を支援するオンライン授業の実施

- ・不登校生徒、ふれあいひろば利用生徒の学習支援の一助となった。
- ・オンライン授業が学習支援の一助となるだけでなく、画面を通じての会話や文字入力を通じたやり取りができ、不登校生徒が社会的自立に向けた一歩を踏み出すことができた。
- ・ふれあいひろば利用生徒がオンライン授業に参加することで、過年度の学習内容を復習ができ、基礎学力の定着に結びついた。

2 SSW と連携した社会的支援の実施

- ・SSW が家庭と学校の間に入ることで、学校が把握できない家庭状況や生徒、保護者の様子を把握することができた。
- ・SSW が不登校生徒の保護者に、関係機関（小児科やショートステイなど）を紹介することで利用が開始され、社会的支援を広範囲に展開することができた。

3 不登校傾向生徒の早期発見・未然防止に向けた組織的な対応

- ・週1回の支援者・いじめ防止委員会を開催し、生徒指導支援員や養護教諭から些細な情報を集約し、情報を参加者で共有することができ、支援に繋げることができた。
- ・生徒が相談者を決定する教育相談を実施したことで、学校生活の困り感や悩みを把握し、担任や教科担、部活動顧問からの支援に繋げることができた。

6 次年度への課題

- ・不登校、不登校傾向生徒への社会的支援に向けて、繋がる人、連携する関係機関（SC や SSW など）を広範囲に展開する。
- ・不登校傾向生徒の早期発見に向けた、アンケート等の質問項目の検討や教育相談期間の変更など。
- ・新たな不登校を生まないよう、支持的風土の醸成された学級、学校づくり。
- ・ICT を利用したオンライン授業の充実や、社会的自立に向けた支援。

7 今後の取組

- ・社会的支援に携わるふれあいひろばやふれあい教室、フリースクール等の利用、ICT を活用した授業などの広報の仕方や、保護者・生徒との連携のあり方の見直し。
- ・教育相談主任と連携した学校生活アンケートや教育相談期間の見直し、変更。
- ・SST や Sel-8s の実施時期や内容の見直しと修正。
- ・支持的風土の醸成された学級・学校づくりに向けて、生徒会等と連携した取組の実施。
- ・今年度実施したオンライン授業の成果や課題を整理し、来年度の改善に繋げる。